



## 横須賀港について

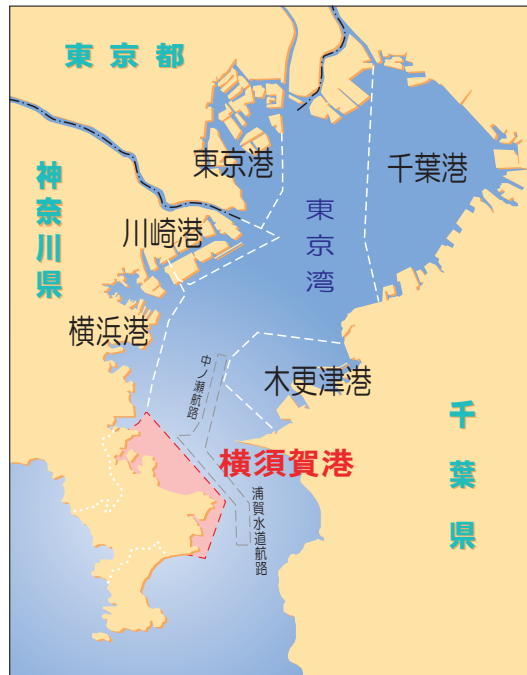
横須賀港は、慶応元年(1865年)幕府の勘定奉行であった小栗上野介忠順(おぐりこうすけのすけただま)が横須賀村に製鉄所を建設したのが始まりとなっています。その後、明治17年(1884年)に横須賀鎮守府(ちんじゅふ)が設置されて以来、軍港として発展してきました。終戦後は、昭和23年(1948年)旧軍港市転換法の施行により、「平和産業港湾都市」へと転換を遂げてきた港です。

昭和26年(1951年)に重要港湾に指定され、昭和28年(1953年)4月1日から横須賀市が港湾管理者となっています。

港が東京湾口部に位置するため、良好な自然環境に恵まれ、首都圏における海洋レクリエーションの拠点となっています。

また、東京湾岸の港湾の中で唯一浦賀水道航路を通らずに利用できるため、海上輸送の高速化が進む中、首都圏への海のゲートウェイとして注目されており、平成16年(2004年)4月には、大分港とを結ぶ「高速カーフェリー」が就航しました。

横須賀港の位置

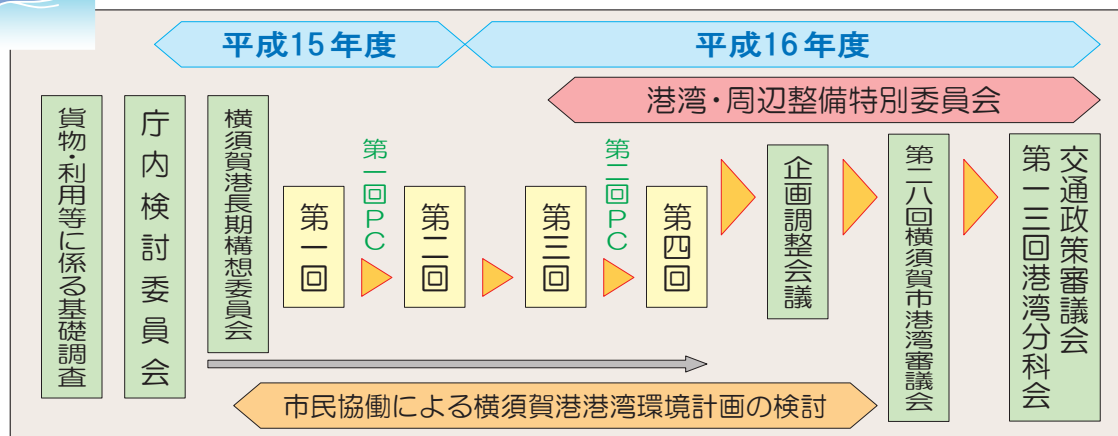


## 港湾計画とは

港湾計画とは、港湾法に位置づけられた法定計画(港湾法第三条の三)で、一定の水域と陸域からなる港湾という空間について、これを計画的に開発・整備し、また、適正かつ効率的に管理・運営・保全するために、港湾管理者が定める長期的な指針となる基本的な計画です。



## 横須賀港の港湾計画 (改訂作業フロー)



## 横須賀港の役割

横須賀市は、都市の活力を再生し、創造するため、横須賀の持つ「自然、温暖な気候、歴史、文化」などを活用し、都市活動を担う定住人口と交流人口を併せた「都市活力人口」の増加、集客力の強化が、これからの進むべき方向と考えています。

そして、横須賀港においては、首都圏港湾の一員として各港湾との適切な機能分担のもと、地域の持つ個性を最大限に活かして、「地域の発展と安定を支える港湾としての役割」及び「首都圏港湾としての広域的役割」を果たす必要があります。

このため、平成20年代後半を目標とする港湾計画を策定しました。